

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670103763
法人名	医療法人 三州会
事業所名	グループホーム せせらぎ
訪問調査日	平成19年7月20日
評価確定日	平成19年8月20日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4 6 7 0 1 0 3 7 6 3
法人名	医療法人 三州会
事業所名	グループホーム せせらぎ
所在地	鹿児島市真砂本町3番92号 (電 話) 099-254-6407
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成19年 7月 20日

【情報提供票より】(平成19年 6月 30日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 8月 5日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計		18 人
職員数	17 人	常勤	15人, 非常勤 2人,	常勤換算 16.5人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	5 階建ての	2 階 ~	3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	16,500 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(6月 30日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	9 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79 歳	最低 69 歳	最高 95 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 三州会 大勝病院 ニュータウン田島歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療機関を核として、介護老人保健施設や通所リハビリテーション、訪問看護ステーション、介護相談センター及び小規模多機能ホーム等と併設されたホームである。地理的には鹿児島市の中心部に位置し、幹線道路である国道に面し、JRの駅からも近く交通の便も良い。母体医療機関との連携による定期的な受診、検査が実施され、ホームに居ながら充実した医療支援が可能となっている。また、自己管理目標を職員全員が半年毎に立て、管理者の指導のもと医療・介護のレベルアップを図るなど、職員を育てることに法人一丸となって取り組んでいる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回外部評価における改善課題であった運営理念の明示は、重要事項説明書に明記されるとともに、正面玄関、2F・3Fエレベーター前及び食堂ホールに掲示されるなど改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 数ヶ月前から、計画的に職員全員で自己評価に取り組んでいる。管理者は勿論、職員も評価の意義をよく理解し、発見された課題に対して全員で改善に向けた取り組みが実施されている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、日頃のホームの活動状況や主な出来事、入居者の状況報告、評価への取り組み状況等が報告されている。参加者からは、お達者クラブ等で認知症に関する講演を依頼されるなど、有意義な会議となっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 相談・苦情対応窓口や第三者委員の設置の他、入居者ごとに連絡ノートがつくれ、ご家族が意見や不満などを表しやすくする工夫がされている。また、これらを通して出された要望や意見等は、すぐに職員間で話し合いが行われて対応されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の行事(夏祭りや運動会、文化祭等)に積極的に参加し、地元の方々との交流を深めている。また、サマーボランティアを通じた小中学生との交流やボランティア活動も計画されている。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「今までの暮らしを継続し・・・」と、これまで生活してきた地域の中での暮らしを支える理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送りの際、管理者、職員のみならず入居者も一緒に理念の唱和が行われている。また、職員は各自のネームの中に理念が書かれたカードを入れ、日常いつでも振り返ることができ、理念の実践に向け日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(夏祭りや運動会、文化祭等)に積極的に参加し地元の方々との交流を深めている。また、サマーボランティアを通じた小中学生との交流やボランティア活動も計画されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	数ヶ月前より、職員全員で計画的に自己評価に取り組んでいる。管理者は勿論、職員も評価の意義を理解し、発見された課題に対して全員で改善に向けた取り組みが実施されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には入居者のご家族のほか、地域包括支援センター職員や地区民生委員、老人会代表等が参加し、日頃のホームの活動状況や主な出来事、入居者の状況報告、評価への取り組み状況等が報告されている。参加者からは、お達者クラブで認知症に関する講演を行ってほしいとの依頼があるなど、有意義な会議となっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも、ホームを運営する上で生じる問題について、その都度市の担当者に相談しており、サービスの質向上に向けて共に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会の際に口頭で報告する他、個別に家族との連絡ノートを作成して情報の共有が図られている。また、家族会の開催(年間2回)や広報誌「あっとほーむ」の発行により定期的な報告が行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情対応窓口や第三者委員の設置の他、入居者ごとに連絡ノートがつくられ、ご家族が意見や不満を表しやすくする工夫がされている。また、これらを通して出された要望や意見等は、すぐに職員間で話し合いが行われて対応されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	原則、各ユニットの職員を固定しており、担当制を導入し、入居者と馴染みの関係が築けるよう努めている。但し、やむを得ない異動や離職に備え、ユニット間の職員及び入居者の交流を定期的に持ち、馴染みの関係を持つよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月カンファレンスの後に、ホーム勉強会を実施している。また、法人全体で実施される合同勉強会にも可能な限り参加し、知識や技量の向上に向け取り組んでいる。また、個人ごとに自己管理目標が作成され、段階に応じて職員を育てる取り組みが実践されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームからの見学(研修)受け入れが行われ、その中での意見交換等により、お互いのサービスの質向上に向けた取り組みが行われている		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者やそのご家族によるホームの見学や交流の機会を多く持つことで、徐々に馴染みの関係を築き、安心納得した上で入居に至るよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者を介護される一方の立場におくことなく、得意な三味線や裁縫を職員が習ったりして、ホームにおいて共に支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から直接お聞きすることに加え、日頃の関わりの中(本人の言動や表情)から思いや意向を把握するよう努めている。また、ご家族や関係者からも、事あるごとに情報を得よう配慮されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者やそのご家族とは、日頃の関わりの中で常に思いや希望を聞き介護計画に反映させている。また、職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスが行われ、日頃のケアや介護計画に反映されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なモニタリングを行い、介護計画の評価を実施している。介護計画の見直し以前に状態変化が生じたり、入居者本人やご家族から新たな要望が上げられた場合など、その都度見直しを行い現状に即して新たな計画が作成されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体病院との協力による医療連携体制を活かし、医療処置を受けながらのホームでの生活継続の支援が実施されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者やご家族の希望されるかかりつけ医の受診が継続できており、適切な医療が受けられるよう支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・看取りの指針が作成され、入居者及びそのご家族に説明した上で同意をいただいている。かかりつけ医を含め、病状・状態の変化の都度、繰り返し話し合いが行われて方針が共有されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを損ねることの無いよう、日頃の勉強会やカンファレンスで入居者への関わり方等、話し合いが行われている。個人情報の取り扱いに関しても、法人としての「個人情報の保護方針」や「個人情報の利用目的」が明示され厳正な取り扱いが行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの基本的な一日の流れはあるが、それぞれの方により、その時の状態や気持ちを尊重した支援が行われている。そのために、入居の際のアセスメント及びその後の意向の把握に注力している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主食はご飯、お粥、パンの中から好みのものを選ぶことが出来る。また、食材の下ごしらえ、調理、盛り付け、配膳、後片付け等、それぞれ出来る範囲で一緒にいき、職員も一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者本人の生活習慣や希望に合わせ、職員のローテーションを検討し入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	木工や園芸(葡萄の木の手世)、台風に備えた木々の始末、詩吟等、それぞれの生活歴や残存能力に応じた役割を見つけて協働し、充実した暮らしが支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周囲の散歩や買い物の他、季節によっては花見に出かけたり、港まで船を見に行くなど、それぞれの希望にそった外出支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りや声かけの徹底、入居者ごとの行動パターンの把握により、日中鍵をかけないケアが実践されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接している母体の病院等と連携し、入居者が参加する避難訓練が年2回実施されている。また、地域の自衛消防団への協力依頼も日頃から行われている。ホーム内の各居室は入居者の状態ごとに色分けした表示がなされており、関連施設からの応援がスムーズに行えるような配慮もなされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「熱計表」により食事量や水分量が把握されている。また、3ヵ月毎の血液検査により、個々の栄養状態の確認を行っている。栄養摂取内容(量・バランス)は管理者及び看護職員により日頃管理されているが、必要に応じて母体病院の医師や管理栄養士に相談が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	既存の施設を改修してつくられたホームであるが、日当たりもよく季節の花や手作りのポスターが飾られ、居心地のよい共有空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物品や観葉植物など馴染みの物が持ち込まれており、入居者にとって居心地の良い居室となっている。		